

2024年11月26日（火）18:00～20:00

会場：筑波大学 5C301室

世話人：榎本靖士（2669） 参加費無料

※学外の方は事前の申込みが必要です。【メール】office.arihhp@un.tsukuba.ac.jp

講演タイトル

スポーツ科学はスポーツ現場で
役に立っているか？

伊藤 静夫 先生

一般財団法人 東京マラソン財団 顧問
日本陸上競技連盟 評議員



わが国のスポーツ科学研究事業の組織的始動は、1964年の東京オリンピック開催に端を発する。日本体育協会に選手強化対策本部が置かれ、下部組織にスポーツ科学研究委員会及びスポーツ科学研究室が新設された。各競技団体にも研究組織が配備され、選手強化と医科学サポートが平行して進められたが、ここで浮上した課題は測定結果や研究成果を如何にスポーツ現場へ伝えるかであった。科学と現場の結び付き、連携の有り様であり、科学研究の分化と統合の課題と言い換えてもよい。現在も色濃く残るテーマでもある。演者は、日本体育協会および東京マラソン財団というスポーツ現場の組織に身を置いた経験から、こうしたスポーツ科学研究の課題について話題提供したい。



University of Tsukuba

主催 筑波大学体育系
ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター（ARIHHP）
代表 高橋 英幸（センター長 教授）
連絡先 ARIHHP プロジェクト推進室（GSI 棟 202）
E-mail office.arihhp@un.tsukuba.ac.jp
電話 029-853-6325/2671

